

9/25(土) まいど！倫理が、今回の倫理は人それぞれで本がつかしきと  
思っ、皆違えていってる。

今週の

倫理

9月のテーマ | 問題意識の活用

葉の島パト-鳥

2021. 9. 25~10. 1

1248号

結婚三年目を順調に迎えたと思っていたM氏。「田舎の実家に帰らせて頂きます」と驚きの言葉を妻から発せられたのでした。

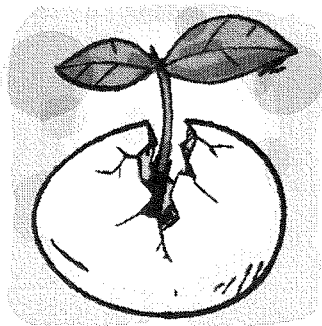
M氏は六十二歳で再婚しました。「お嬢さんを必ず幸せにしますから」と、義父に約束して結婚を許してもらいました。十二歳年下の妻は、実家のある県から出ることなく、これまで暮らしてきました。

そのため、M氏は妻が頻繁に帰省できないので、「寂しい思いをさせまい」と、常に話しかけ、胸の内を聞いていたのです。とはいえ、M氏自身、出張が多いことから、家のことを妻一人に任せきりにしていたことを気にかけていました。

休日、M氏が家で妻と一緒に過ごせる時は、一緒に買い物に行きます。夫婦での旅行も年に三回以上出かけ、盆暮れ、お彼岸には田舎に一緒に行きます。さらには、隔月で妻が片道一時間半以上かかる美容室に出かける際も、一緒について行くほです。

妻もM氏の行動に呼応するように、M氏好みのショッピングモールを探したり、ヨガ教室を見つけたりしてくれます。家事も嫌な顔をせずこなしてくれていました。

すべてが順調だったはずでした。そんな最中での冒頭の「実家に帰らせて頂きます」の一言でした。その一言の直前まで、妻は普通に家事をしていたので、不思議に思ったM氏は、帰る理由を率直に聞いたのです。「いつも定期便のように出張から戻るあなたが心苦しいの。発熱したからといって、何度も体温を測る人はいないでしょ……」。



## 夫婦間での問題発生は 自分が原因だと知るべし

私は美容室には一人で行きたいのに、なぜいつもついてくるの……」

不満を爆発させた妻の一言一言に対して、M氏は「寝耳に水」な状態でした。

妻にかける言葉もなく、職場に向かったM氏でしたが、仕事を終えて帰宅すると、妻の姿はありませんでした。

「なぜ妻は出ていったのだろう。妻は私のどこに不満があったのだろう」とM氏は、「なぜ」という言葉と葛藤しました。その答えが見いだせないまま、二日が経過し、仲人を務めてくれた上司に相談しました。

「夫婦円満の秘訣は、子育てと同じです。子が夢に向かって突き進むとき、お金は出すけど、口は出さないでしょ。夫婦の関係も、妻のありのままを、そのまま見守ってあげればいいのですよ」と言われました。

これまでのM氏の行動は、すべて良かれと思っしてしていたことでしたが、妻を縛り付けることになっていたとは思っても及びませんでした。M氏はこの時、初めて自分に非があることを知ったのです。

大反省をした数日後の夜、妻は帰ってきました。これまでのことを妻に詫言ると、妻の顔が安らいでいくのが分かりました。

数日後、妻から「南の島へ一人旅に出たい」と言われました。「口は出さない」と決めたM氏はすぐに、快諾しました。南の島の見知らぬ土地へと旅立った妻が、二週間後に帰宅すると、その表情はとても穏やかでした。M氏は、(妻のありのままを受け入れよう)と夫婦の再出発を誓ったのでした。